

藻岩・南沢地区 学校配置検討委員会ニュース

発行
2023年7月18日

藻岩・南沢地区では、藻岩南小学校の小規模化による課題の解決等のため、令和5年2月より「学校配置検討委員会」を設置し、検討を進めております。

この度、令和5年5月23日に第2回学校配置検討委員会を開催いたしました。検討状況につきまして、地域の皆様へお知らせしますので、是非とも多くのご意見をお寄せください。

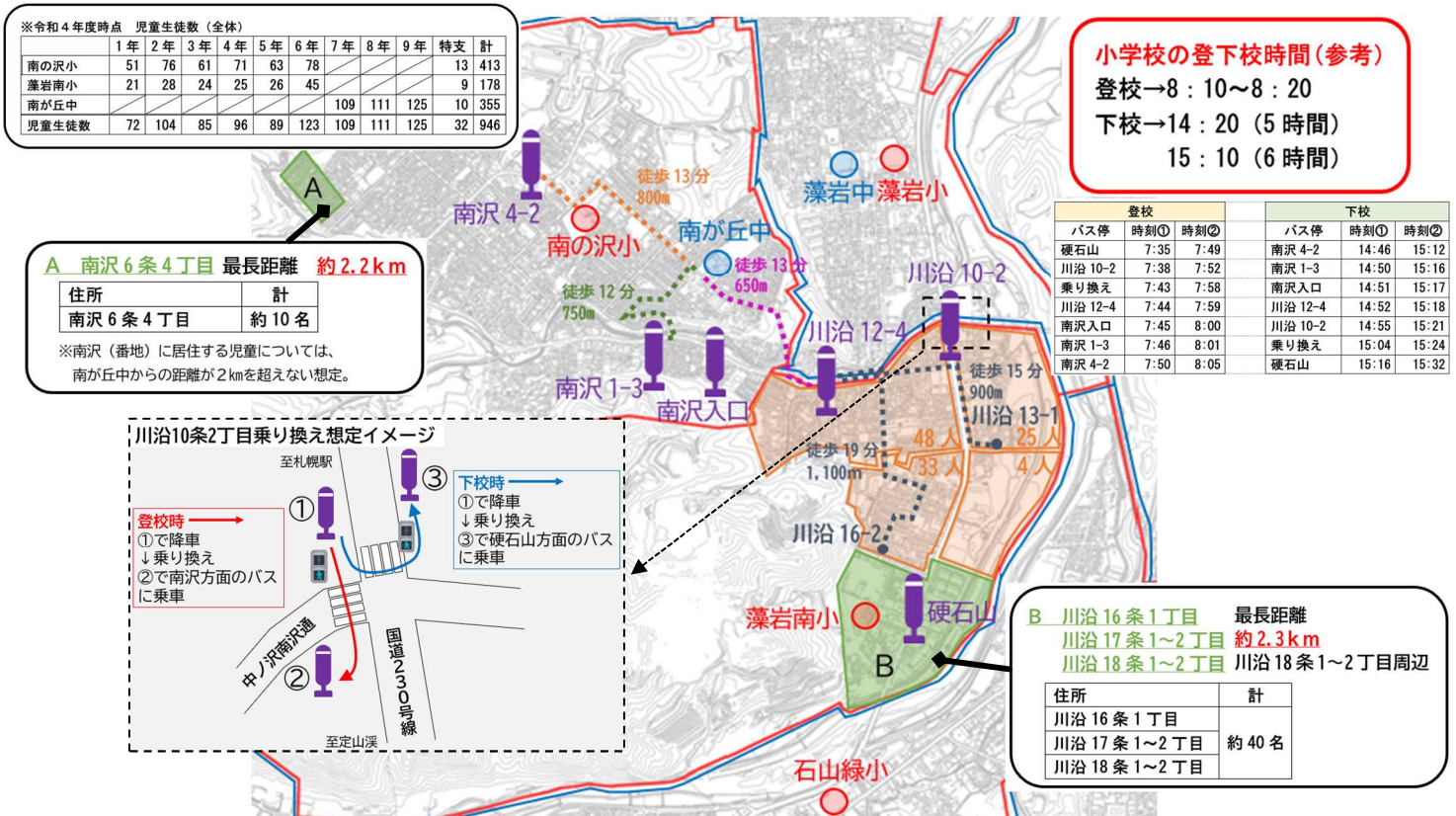
検討委員会の配布資料等については札幌市教育委員会のホームページに掲載しています。

https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/moiwa_minamisawa.html



※第2回配布資料：地域から寄せられた意見（5件）など

協議事項1 通学距離2kmを超える児童の通学方法について



【協議内容】

- 既存の路線バスの利用を前提とした場合の通学方法について

硬石山で乗車 → 川沿10条2丁目で乗り換え → 川沿12条4丁目等で降車

※義務教育学校を設置する南が丘中の敷地から2kmを超える藻岩南小学校校区の児童は40名程度（令和5年5月時点）。

意見・質疑応答の概要

※類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

※「●」・・・委員からの意見、質問等

※「⇒」・・・委員、札幌市・教育委員会職員からの説明、回答

協議内容全般に関して

- 対象児童が約40名もいるならば、スクールバスの運行を検討すべきではないか。

⇒【教育委員会】

・まずは既存のバス路線の活用方法や可否について検討していただきたい。その結果、路線バス活用が著しく困難となった際に、スクールバス運行の検討を行いたい。

既存路線バス利用の課題について

- 既存のバス路線による通学は、歩く距離や時間が短くなること以外メリットを感じない。バスの乗り換えが発生し、大きな道路も横断しなければならないことを考慮すると、この案に良さは感じない。
- なぜバスの乗り換えをさせてまで、学校の統廃合を進めるのか。仮に乗り換えをにしても、急な坂を登って通学しなければならないという課題は解決されない。
- 南が丘中から2kmを超えない区域でも、南が丘中まで距離が遠く、1年生にとって坂を登って通学するのは厳しい。単純に距離だけで判断せず、天候や地理的条件なども考慮し、バス通学助成の対象範囲を拡大してほしい。

⇒【教育委員会】

・既存のバス路線の利用が厳しいというご意見が多数挙げられているが、スクールバスの運行、交通費の助成対象などは他の地域との兼ね合いもあり、事務局でも持ち帰り検討させていただく。

- 3校それぞれのPTAを通じて、通学に関する課題を挙げたうえで、「こういう対策をしなければ、協議を先に進められない」といった要望を学校ごとに出すのはどうか。
- 日中に大雪が降った日は歩道を歩くことは困難で、通学する子どもたちが車道を歩いてしまうと、重大な事故に繋がってしまう。
- 川沿10-2での乗り換えについて、本当に一斉に児童がバス停に並んだりできるのか。

スクールバスの導入について

- 既存のバス路線を使うのは難しいと思うので、藻岩南小の児童が元気に通えるよう、スクールバスを運行していただくのが良い。
- スクールバスを運行して、学校までは無理でも、既存のバス停留所までは乗り換えなしで行けるようにした方がよい。
- 小学1年生にとって、バスを乗り継ぐことはとても難しいことと感じる。この取組を進めるのであれば、スクールバスを運行してもらいたい。
- 希望する家庭の児童全員が乗れるスクールバスがないと、低学年の児童にとっては南が丘中の場所まで歩いて通学するのは酷である。

- 既存のバス路線を使うのか、スクールバスを運行するのかどちらかによって、取組に対する意見も違って来るだろう。

その他

- 藻岩・南沢地区の子どもが、この地区の大勢の子どもと勉強したり遊んだりできる環境は大事にしてあげたいと感じる。
- 否定的な意見ばかりを述べるのではなく、挙げられた課題をどう解決していくかを考えるのがこの検討委員会の主旨ではないか。
- 3校が合わさると946名（R4時点）とかなり大規模な学校となる。本当に南が丘中敷地に、体育館やグラウンド、複合施設が入るのか。概算を示してほしい。
- 2km超えの児童は、一部石山緑小に通わせるべきという案も出ているが、非常に乱暴な案である。通学面だけではなく、学校や地域の歴史の問題もある。
- 通学距離や通学安全を考えれば、石山緑小に通うという選択肢をとるほうが良い場合もあるのではないか。

【協議結果】

○本件については、乗り換え以外の手段（スクールバスの運行、石山緑小への通学等）により課題を解決できないか、引き続き検討を行う。

協議事項 2 通学安全について

【協議内容】

- ・校区内の危険箇所等について確認。

意見・質疑応答の概要

- 八垂別の坂下の交差点（川沿 12-4）の国道 230 号側に信号機がない。また、そこから八垂別の坂を上り、南が丘中に着くまでに横断歩道がない。
- 信号機や横断歩道の設置基準により、設置が難しい箇所なのかもしれない。
- 通学路の除排雪はしっかりしてもらい必要がある。雪山により車道が狭くなると、車と歩行者の接触リスクが高まる。
- 八垂別の坂の道路の曲線を解消するか、拡幅するなどの対策を講じなければ、通学の際に非常に危険である。
- 八垂別の坂も含め、中学校に向かう通学路は全体的に日中でも暗いと感じる。下校の時間帯は更に暗くなるので、明かりがもっとあったほうが良い。
- 盤溪北ノ沢トンネル開通後、周辺の交通量は7割増となった。場合によっては、スクールゾーン内の交通規制や速度を抑制する凸凹の道路も検討したほうがよい。
- 保護者による送り迎えの車も想定した校舎の配置にすべきである。

【協議結果】

- 除排雪の状況や、信号機や横断歩道、街灯の設置基準等について、関係機関へ確認した結果を事務局より報告する。その内容を踏まえ検討委員会としての意見をまとめる。

協議事項 3 検討委員会の運営方法について

【協議内容】

- ・第1回より継続協議となっていた検討委員会の公開・非公開について協議。

【決定事項】

- 検討委員会については、「非公開」とする。
- 検討委員会の協議内容については、今後もニュースレターの配布により、地域の皆様へ丁寧なお知らせを心掛けるとともに、広く意見募集を行う。

次回の検討委員会について

- ▶ 会議名 第3回 藻岩・南沢地区 学校配置検討委員会
- ▶ 開催日時 2023年(令和5年)8月30日水曜日 18時00分～19時30分
- ▶ 開催場所 もいわ地区センター (南区川沿8条2丁目4-15)

※検討委員のみが参加する会議のため、一般の方は入場できません。内容は後日ニュースレターやホームページでお知らせいたします。また、日程は都合により変更となる場合があります。

次回(第3回)検討委員会の議題(予定)

- ▶ 第2回検討委員会の振り返り ▶ 地域や保護者の皆様から寄せられた声の紹介
- ▶ 通学方法や通学安全など、取組案の課題整理と解決の方法
- ▶ その他、当日協議を行う必要があるもの

ご意見、ご質問は、下記事務局までお寄せください。

藻岩・南沢地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶ 札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課 (学校配置マネジメント担当)
- ▶ 電話 : 011-211-3836 FAX : 011-211-3837
- ▶ Mail : gakkokibo@city.sapporo.jp



さっぽろ市
02-S01-23-1247
R5-2-870
SAPPORO